

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第1回実務委員会
議事要旨

1. 日時 平成19年11月22日(木) 15:00~18:00
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 生出委員, 関根委員, 中山委員, 三浦委員, 矢吹委員,
相澤委員, 田中委員
4. 会議の概要
 - (1) 「病院の言葉」委員会(全体会)第1回の議事確認
 - ・ 第1回の全体会で議論された事柄について確認した。
 - ・ 全体会の会議録, 議事要旨の形式について, 案に基づいて意見交換を行った。
 - (2) 実務委員会の作業手順について
 - ・ 提案に向けて行う今後の作業手順について, 検討を行った。
 - (3) 語彙選定と問題の類型化の作業について
 - ・ 提案に取り上げる語彙を選定する方法と具体的手順について, 討議した。
 - ・ 提案に取り上げる問題を類型化する方法について, 討議した。
 - ・ 語彙選定や問題の類型化のための資料の一つとなる, 医療従事者対象の一次調査の結果について, 検討を行った。
5. 討議における主な意見
 - ① 「病院の言葉」委員会(全体会)第1回の議事, 記録について
 - ・ 時系列に沿って, 発言者別に詳しくまとめた「会議録」と, テーマごとに発言の要旨をまとめた「議事要旨」との両方を作成したい。公開の形態をどうするかは, 第2回の全体会で検討したい。
 - ・ 「議事要旨」にも, コーパスによる語彙の採集・抽出の手順を具体的に記した方が良い。「議事要旨」は一般公開されるだろうから, コーパスについてきちんと記述し, その意義を説明した方が良い。

② 提案までの実務委員会の作業手順について

- ・ 提案の素案は、実務委員の中でいくつかのグループを作り、それぞれが案を発表し合うといったワークショップ形式で作成するのが良いのではないか。
- ・ 提案の素案は作業部会が作成し、それをたたき台に実務委員で議論し決めていく、という流れが良いのではないか。
- ・ 素案についての実務委員による検討を、委員会の場で合議の形で行うか、各自に持ち帰って記入してもらい作業部会がとりまとめる形で行うのかといった、その後の具体的な手順については、語彙選定作業を行いながら、検討していきたい。

③ 語彙選定や問題の類型化の作業について

- ・ 作業部会で語彙の抽出作業を行う際に用いる、コーパス、用語集、医療従事者調査の指標は、実務委員による語彙選定資料にも、残しておいてほしい。
- ・ 作業部会における検討の過程が、実務委員会でも参照できるように、語彙選定資料を工夫するのが良い。
- ・ 国語辞典の掲載状況に関する情報は、小型辞典、中型辞典、大型辞典とを分けて示す方が良い。
- ・ 例えば、「MRI」と「核磁気共鳴画像」、「延命」と「延命治療」のように同義または類義の言葉の間で、語彙選定の判断が異なってしまうことがないように、選定用資料の形式や、選定手順を考慮する必要がある。
- ・ 医療従事者調査から挙がってきた「様子を見ましょう」「検討しておきます」などの表現は、医者が良く使う表現だが意味するところはさまざまである。このような独特の表現も提案に取り上げたら面白いものになるだろう。
- ・ 医療従事者調査の結果を見ると、言葉を聞いたときの患者の反応の観点から、問題を①理解と誤解、②過剰反応と過小反応、③区別ができない、の3つに区分できそうである。作業部会でそのような指標を見つけて語を分類しておき、実務委員が絞り込むという手順にできないか。
- ・ 問題の類型の枠組みとして、①「誰にとっての難しさか」という枠組み、②「言葉の面からの難しさ」という枠組み、③「言葉の概念や意味そのものの難しさ」という枠組み、④「説明すべき事態や内容の深刻さによる伝えにくさ」という枠組み、などが挙げられる。このような類型の枠組みに留意しながら、語彙選定作業を進めていくことになるだろう。また、作業の途中で見えてくる枠組みもあると思うので、それらは、作業シートのコメント欄に書き留めていくのが良い。

- 医療従事者調査の結果からある程度の類型化は作業部会でもできると思うが、特に医療従事者でなければ分からない問題、類型などは、医療従事者である委員から出してもらう必要がある。
- 実務委員会にはさまざまな立場の委員がいるので、語彙選定の観点もさまざまなものがあつた方がよい。どの観点に立つのかを全員で共有することはせず、各人の観点から判断してもらいそれを総合することで、より良いものになるように思う。
- 今日の議論で出てきたような、類型化に関してキーとなる観点を一度整理し、実務委員作業のスタート時点で、全員で共有する必要があるだろう。
- 語彙選定の作業では、何語に絞り込むのか、という問題がある。全体会の議論では、重要な語彙と、それらの語が代表する問題類型をきちんと押さえることが重要だとされた。実務委員による作業の結果、最初は、かなり多くの語が選定されても、その選定の観点が明確化されればよい。その観点を整理しながら、さらに絞り込んでいくことも可能である。
- 語彙選定と問題の類型化ができれば仕事の半分はできたように思うが、その後の提案内容の記述もなかなか容易ではないだろう。語彙選定や類型化の作業の段階で、提案に記述する内容についてもある程度考えながら作業することも必要である。

以上